

[成果情報名] **光反射シート、紫外線除去資材によるアスパラガスのネギアザミウマの密度抑制効果**

[要約] ハウス側面開放部外縁に光反射シートを敷設するとアスパラガスのネギアザミウマの密度を抑制できる。ハウスを紫外線除去フィルムで被覆するとアスパラガスのネギアザミウマの密度を抑制できるが、紫外線透過抑制ネットで被覆すると密度を抑制できない。

[キーワード] 紫外線除去フィルム、光反射シート、アスパラガス、ネギアザミウマ

[担当] 香川農試・病害虫担当

[連絡先] 087-889-1121

[区分] 近畿中国四国農業・生産環境（病害虫）

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

アスパラガスのハウス長期どり栽培では、春から秋にかけてネギアザミウマが多く発生して被害を受ける。しかし、本種に適用のある農薬がなく、防除に苦慮している。そこで、ハウスへの本種の侵入を抑制して発生量を減少させることを目的に、光反射シートの敷設、紫外線（UV）除去フィルムの被覆、紫外線（UV）透過抑制ネットの被覆による効果を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 2m 幅の光反射シートをハウス側面開口部の外縁に敷設すると、アスパラガスのネギアザミウマの密度を約 1 カ月後まで 5 割以下に抑制できる（[図1](#)、[2](#)）。
2. ハウスを紫外線除去フィルム（波長 350nm 以下除去）で被覆すると、ネギアザミウマの密度を約 1 カ月後まで一般農ビ被覆ハウスの約 5 割に抑制できる（[図1](#)）。
3. 0.75mm 目合紫外線透過抑制ネット全面被覆ハウスは 1mm 目合ネット側面開放部被覆農ビハウスに比べてネギアザミウマの密度が高く、防除効果は認められない（[図2](#)）。これは 0.75mm 目合紫外線透過抑制ネットが 1mm 目合ネットよりネギアザミウマを多く誘引するためと考えられる（[表1](#)）。

[成果の活用面・留意点]

1. 紫外線除去フィルム、光反射シートはハウス内ですでに発生しているネギアザミウマの虫数を減少させることはできないので、発生前から使用する。

[具体的データ]

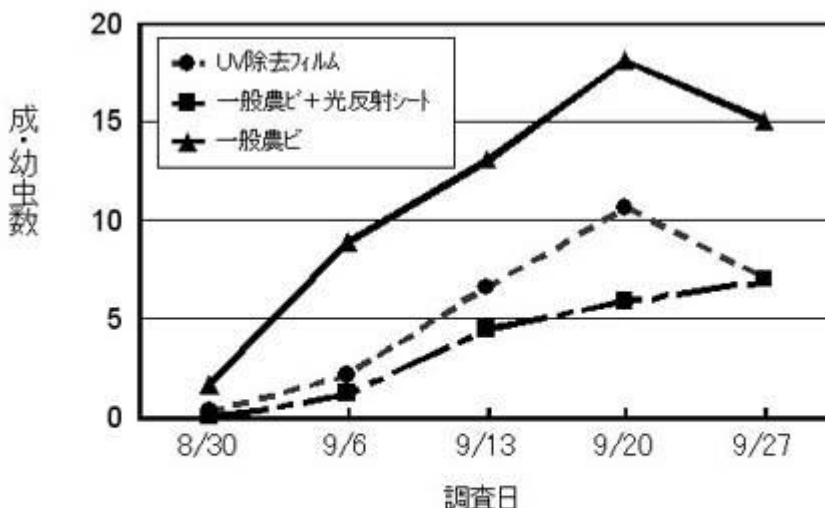


図1 UV除去フィルム、光反射シートによるネギアザミウマの密度抑制効果

注) 8/12にポット植えのアスパラガスを各ハウス(5×6m)に搬入し、8/30から払い落とし調査を行った。各ハウスの側面は開放した。

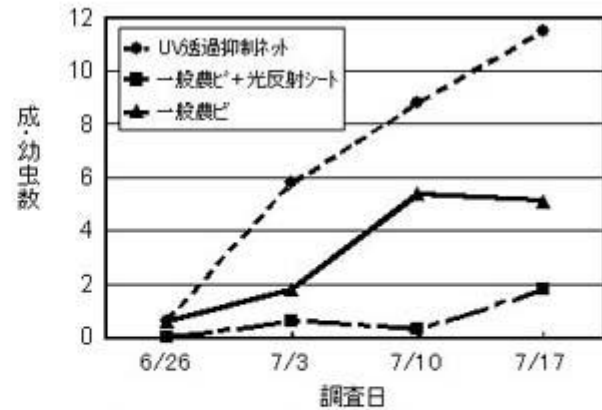
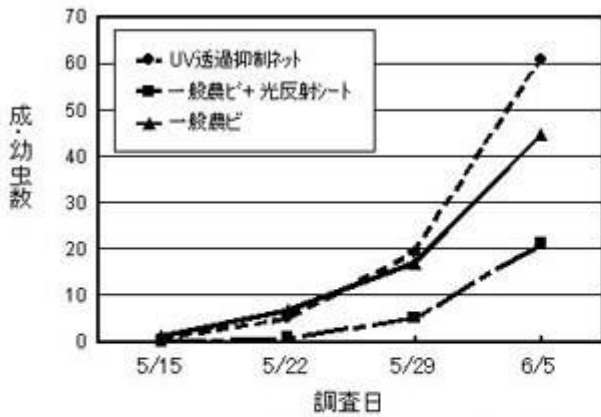


図2 UV透過抑制ネット、光反射シートによるネギアザミウマの密度抑制効果

注) 5/11にポット植えのアスパラガス各ハウス(5×6m)に搬入し、5/15から払い落とし調査を行った。UV透過抑制ネットはハウス全面を被覆した。一般農ビは側面以外を被覆し、側面開放部を1mm目合ネットで被覆した。6/5の調査後にアスパラガスポットをハウス外へ搬出し、6/12に再びハウスに搬入して6/26から同様の調査を行った。

表1 透明粘着剤を吹き付けたネットで捕獲したネギアザミウマ成虫数

供試ネット ¹⁾	7/7~7/14	7/14~7/21
UV透過抑制ネット	85.3	281.7
1mm目合いネット	24.0	118.7
UV透過抑制ネット+透明ビニール	54.3	121.0
1mm目合いネット+透明ビニール	7.0	19.3

1) 20×30cmの各ネットをネギを栽培してネギアザミウマが発生している圃場に設置し、スプレー式の透明粘着剤を均一に吹き付けた。飛来したネギアザミウマがネットを通り抜けることのないように、背面に透明のビニールを貼りつけたネットも供試した。表の数値は3反復の平均値。

[その他]

研究課題名 : 園芸作物における病害虫の総合防除技術の確立
 予算区分 : 県単
 研究期間 : 1999~2000年度
 研究担当者 : 藤本伸、松本英治
 発表論文等 : なし